

平成23年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立水木小学校 教諭 内藤 さおり

- 1 派遣期日 平成23年11月28日（月）
- 2 研修先 学校名 神奈川県茅ヶ崎市立浜之郷小学校
所在地 神奈川県茅ヶ崎市浜之郷90番地
<http://www.geocities.co.jp/NeverLand/2135/main.html>

3 研修内容

茅ヶ崎市立浜之郷小学校 第14回教育研究発表会
学びあう学びをもとめて ～授業をひらき 授業をかえる XIV～

(1) 茅ヶ崎市立浜之郷小学校の研究

創学の理念「学びの共同体としての学校」

～支えあう・聴きあう・学びあう～

- ① 浜之郷小学校では、子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して『人生最高の6年間』を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校を目指している。
- ② 開校14年目を迎え、これまでを問い直し、今年度の課題を設定している。

課題設定の視点

(A) 自律と協同

- ① 「自立」の前の「自律」
自主→自律→自立
- ② 「共同」の前の「協同・協働」
協力→協同・協働→共同

(B) 継承と創造 修正もしくは改善

- ① 原点確認
- ② より細かく よりていねいに
・授業改善、学校改善に向けた継続的な努力
- ③ 「小学校」の役割、「浜之郷小学校」の再確認
・次につながるため、つなげるための「最高の6年間」の追求
・9年間の中のはじまりの6年間
・保護者（家庭）・地域（市民、機関）との連携のあり方の追求
・より高い同僚性の追求

(2) 今年度の課題

①「質の高い学び」をめざす

ア 新教育課程・新指導要領、新教育基本計画（市）の徹底・実践をすすめる。

聴く	低学年	話し手の方を見て、最後までしっかり聴く
	中学年	目を見て頷きながら聴く
	高学年	話し手の思いをまるごと受け止め、自分の考えをもつ
話す	低学年	みんなに話す：みんなに声を届ける
	中学年	相手を意識して：聞き手を見ながら
	高学年	場に応じた話し方：わかりやすい話し方
態度	あいさつをしっかりとる 場に応じた言葉遣いを身につける 他人に迷惑をかけない 時間を守る 学習の準備を確実にする	

イ 「協同的な学び」を追求し、授業の工夫と改善をはかる。

- ・わかる学力、できる学力の習得に向けて、授業の工夫改善をはかる。
- ・学習形態（ペア学習 グループ学習）を工夫する。
- ・「ジャンプのある学び」に取り組む。
- ・『先進校』の授業研究会や発表会、講演会等への積極的に参加し、校内への還元をはかる。

ウ 学習のつながり・ひろがり・ふかまりを大切にする授業を工夫する。

・「聴く」「つなぐ」「もどす」を大切にする。

(3) 公開授業参観

○第6学年・算数科 指導者 吉野 勝彦 教諭

○学習のくくり 「角柱と円柱の体積」

角柱や円柱の体積の求め方を理解し、計算によって求めることができるようにするとともに、それらの図形について理解を深める。

○研究主題にせまるために

・「どうしてもが深まる時間」→公式を覚えるのではなく、公式を作り出す。

・グループ学習→自分の考えだけでなく、グループの中で自分の考えと一緒に人、違う人、いろいろな考えを交流する。

○授業の様子

まず最初に、長さと面積の考え方を確認し、その後、具体物を使って、面積が広いと体積は大きくなるかという問いかけをした。角柱の体積は「縦×横×高さ」であることを既習しているが、具体物の2つの角柱は、一つは縦・横・高さが分かっており、もう一つは底面積と高さが分かっているものであるため、こちらは既習の公式が使えない。しかしながら、公式の「縦×横」＝「底面積」であるので、底面積が分かっているならば、立体の体積が求められることを感じられるように授業が進んだ。

グループ学習（3～4人）で、二つの体積を求める話し合いが行われた。子どもたちは、意欲的な話し合いの中で、班の中にいる「分からない」という友だちに、「底面積」＝「縦×横」であることを説明し、ほぼ全グループが答えを導き出した。

そこから、「では、底面の形が変わったら」となげかけ、底面が円や三角形である場合の体積の公式を、話し合いの中で導き出すことができていた。

4 感想

今回の研修で、他者とのかかわりの中で学ぶ「学びあう学び」について、「聴きあうかかわり」がとても大切なことを感じた。その中で、教師は「聴く」「つなぐ」「もどす」の役割が中心になる。グループで話しあい、聴きあい、出された意見は、他のグループの出された意見とつながり、それをまた戻して再度深めあう授業が行われていた。

公開授業の他に、話題提供授業として、第5学年の国語科「わらぐつの中の神様」を参観させてもらったが、各グループで場面読みをし、登場人物の心情の変化を、どの文章から感じ取ったかを話し合っていた。子どもたちは、自分の考えや感想を聴いてもらえるという満足感と、表現する楽しさを味わっていた。そこには、「聴いてもらえる」という安心感があることに気付いた。まずは、浜之郷小学校の「聴く・話す・態度」がしっかりと身に付いているのだろう。また、担任は、余計なことを語らず、子どもたちからの言葉のみで、ほぼ授業が進行していた。最終的には、そのような授業が行えるように、生活態度や学級の雰囲気作りから始めたい。

浜之郷小学校の考える「学び」とは、基本的には「モノ（教材、あるいは対象世界）と対話し、他者の考えや意見と対話し、自分自身の考えや意見と対話する実践」と考えている。1時間の授業の中で、友だちとの話し合いだけではなく、教材との対話を大切にしていかなければならないことも感じた。自分の考えをもつことこそが、学びあいのスタートである。万が一考えがもてずにいるとしても、それは「分からない」という考えであってそれでよいということにも気付いた。「分からない」と言うことで、友だちからの意見をもらい、自分の考えをもてるようになるという。

また、教職員が一人残らず教育の専門家として成長しあえる学校として、個人研究テーマを設定して追求していることに驚いた。職員室の机もグループ学習のときのように並べられてあり、机上の整理整頓されているフラットなスペースも、職員がすぐに話し合える環境づくりができています。参考になる環境づくりは、自分の学級でも取り入れていきたい。